

---

# 「長崎地元民」の構築

---

## 東濱町の竜宮船における担い手の継続性とアイデンティティの層

---

増田 研

### 1. はじめに

本研究が課題とするのは長崎における土着性の構築である。考察の対象とするのは長崎市中心部、いわゆる浜の町商店街に含まれる旧東濱町である。東濱町は寛文12年（1672年）に旧浜町が東西に分割されたことで誕生した町であり、成立当初はまだ海に面していた。当初から居住者の多くは各地から移住してきた商家であったと考えられるが、詳しいことは不明である。旧東濱町は現在、浜市商店連合会に属する商業地区の一角をなしており、創業100年を超える老舗も数件存続する。

東濱町という名称は町堺町名変更によって昭和41年に消滅したが、そうした条件下において東濱町というある種の「仮想の共同体」を実体あるものとして成立させている文化的仕掛けとして、長崎くんちへの出演および各種の地域アソシエーションの存在を指摘する。とりわけ本稿ではこの東濱町による諏訪神社祭礼（長崎くんち）への奉納踊りおよび演じ物の変遷、参加メンバーの推移とその年齢階梯的特色を考察する。そのうえで商店街という地縁共同体の可能性を論じると共に、多様な出自をもつ構成員のハイブリディティが「長崎地元民」アイデンティティを構築することの積極的意義へと議論を広げたい。

伝統的な祭祀や祝祭が、社会全体の構造変化に伴って存続の危機を迎えること、とりわけ高度経済成長期の日本における住民の流動化や居住形態の変化が、祭りの担い手の減少をもたらすことは多く指摘されてきた。長崎くんちに関しては、森田（1990）が1970年代の調査に基づいて、大田（2013）が近年の調査に基づいて、それぞれ踊町の「担い手」問題に関する論考を発表している。本稿ではそうした担い手問題に直接言及することはないが、担い手の質的变化を分析することで地域アイデンティティの構造を明らかにしようとする点で先行研究と接点をもつ。

本稿は平成22年（2010年）に行ったフィールドワークで得られた資料に基づくが、依然として予備的考察にとどまっていることを述べておく<sup>1</sup>。

### 1. 東濱町

東濱町<sup>2</sup>はその名のとおりにかつては海浜地帯であった場所が埋め立てられて成立した町である。その成立は1660年頃とされ、当初はひとつの「浜町」であったものが1672年に東西に分割され、東濱町が成立した。1818年にこの地に夜市が開かれるようになり、明治以降に商店街を形成した

とされる。現在の浜市商店連合会に連なる商店会「浜市」が創設されたのは1902年であるが、これは商店組合の結成としては全国で2番目であった。

東濱町における地域アイデンティティは、商店街としての「浜の町アーケード」、商業組合としての「浜市」、そしてローカルな紐帯を構成する旧「東濱町」の、少なくとも3つのアイデンティティの層が重ね合わされている点に特徴がある。行政上の地区名としての東濱町の名が用いられていない現在では、東濱町としてのアイデンティティ基盤はそれほど強くはなく、また多くの商店がその土着性を主張できるほど長きにわたってこの地で商売を展開しているわけでもない。実際のところ、東濱町における商店の明治以降の変遷を確認すると、この地への「進出」、この地からの「転出」、屋号や店名の変更などが多く、江戸期からの町の継続性・永続性を担保する要素が弱い。

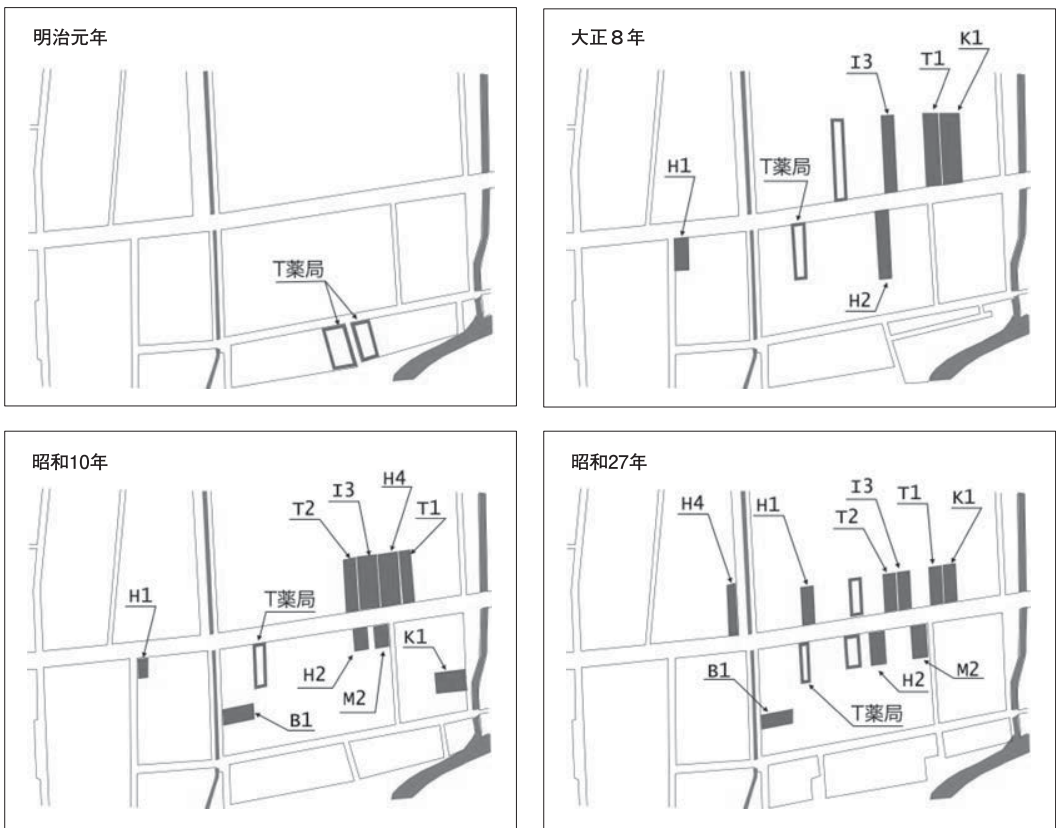


図1 現在まで存続する商店

(『長崎浜の町繁盛記』に掲載されている明治元年、大正8年、昭和10年、昭和27年の商店街地図から現在まで存続する商店を表示している。表2にて言及のある奉納踊り(竜宮船)参加者を出す商店には番号を振った。)

図1は『長崎浜の町繁盛記』(田栗 1983)所収の明治元年、大正8年、昭和10年、昭和27年の商店街地図をもとに、現在まで存続している商店を図示したものである。それぞれの地図は表記も縮尺もまちまちだが、ここでは大正8年の地図に合わせて調整してある。

明治元年の地図には90件あまりの商店が記載されているが(実際に地図に記載されているのは屋号あるいは商店主の名前とみられる)、このうち現在まで継続して浜の町で営業を続けている

のはT薬局のみである。T薬局は明治10年に現在地に移転し、いまに至るまで同じ場所での営業を続けているが、このような例は珍しい。多くの商店がたびたび店舗の場所を変える流動性の高さが一つの特徴である。T1は舶来小間物商として明治10年4月に本家から独立創業し、現在地に店舗を構えた。T2は嘉永4年(1851年)創業の呉服店であるが、大正10年(1921年)に鍛冶屋町から現在地に移転した。I3は明治16年に創業した筆墨専門店であるが、明治20年(1887年)に勝山町から現在地に移転した。B1は明治27年に和菓子店として大浦町で創業したが、その後洋菓子店に転じ、本石灰町、船大工町と移転を繰り返したのち昭和2年(1927年)に東濱町の現在地に移転した。H2は明治13年に博多織専門店として東濱町で創業したが、戦後は化粧品店として現在にまで至る。

こうした店舗の創業や転入が東濱町の構成を常に変動する状態においてきたことは間違いない。生活のための生産基盤を土地におく農村とは異なり、二次的生産と流通を担う都市域においては、そもそも「土地」と「住民」を強く結びつける必然性が弱い。こうした条件下においてなお東濱町という地域アイデンティティを構築することが可能なのは、複数の文化的仕掛けが施されているからだと考えられるのだ。その「仕掛け」として商店街・自治会・青年会という地縁組織および「くんち」への参加活動が機能しているというのが、本稿の検討課題である。

| 元号    | 西暦   | 奉納踊り / 演じもの | 備考   | 元号    | 西暦   | 奉納踊り / 演じもの | 備考    |
|-------|------|-------------|------|-------|------|-------------|-------|
| 平成22年 | 2010 | 竜宮船         |      | 天保8年  | 1837 | 唐子踊?        |       |
| 平成15年 | 2003 | 竜宮船         |      | 文政13年 | 1830 | 唐子踊?        |       |
| 平成8年  | 1996 | 竜宮船         |      | 文政6年  | 1823 | 唐子踊?        |       |
| 平成元年  | 1989 | 竜宮船         |      | 文化13年 | 1816 | 唐子踊?        |       |
| 昭和56年 | 1981 | 竜宮船         |      | 文化6年  | 1809 | 唐子踊?        |       |
| 昭和51年 | 1976 | 竜宮船         | 特別参加 | 享和2年  | 1801 | 唐子踊?        |       |
| 昭和49年 | 1974 | 竜宮船         |      | 寛政7年  | 1795 | 唐子踊?        |       |
| 昭和42年 | 1967 | 唐様恋錦絵       |      | 文明8年  | 1788 | 唐子踊?        |       |
| 昭和35年 | 1960 | 唐様恋錦絵       |      | 文明元年  | 1781 | 唐子踊?        |       |
| 昭和28年 | 1953 | 唐様恋錦絵       |      | 安永3年  | 1774 | 唐子踊?        | 火災等の事 |
| 昭和23年 | 1948 | 唐子踊 / 段尻    | 特別参加 | 明和5年  | 1768 | 唐子踊?        | 情により出 |
| 昭和7年  | 1932 | 唐子踊         |      | 宝暦10年 | 1760 | 唐子踊?        | 演年調整  |
| 大正14年 | 1925 | 唐子踊         |      | 宝暦3年  | 1753 | 唐子踊?        |       |
| 大正7年  | 1918 | 唐子踊 / 段尻    |      | 延享3年  | 1746 | 唐子踊?        |       |
| 明治43年 | 1910 | 唐子踊         |      | 元文4年  | 1739 | 唐子踊?        |       |
| 明治36年 | 1903 | 唐子踊 / 段尻    |      | 享保17年 | 1732 | 唐子踊?        |       |
| 明治29年 | 1896 | 唐子踊         |      | 享保10年 | 1725 | 唐子踊?        |       |
| 明治22年 | 1889 | 唐子踊 / 段尻    |      | 享保3年  | 1718 | 唐子踊?        |       |
| 明治15年 | 1882 | 唐子踊         |      | 正徳元年  | 1711 | 唐子踊?        |       |
| 明治8年  | 1875 | 唐子踊?        |      | 宝永元年  | 1704 | 唐子踊?        |       |
| 慶応元年  | 1865 | 唐子踊?        |      | 元禄10年 | 1697 | 唐子踊?        |       |
| 安政5年  | 1858 | 唐子踊?        |      | 元禄3年  | 1690 | 唐子踊?        |       |
| 嘉永4年  | 1851 | 唐子踊?        |      | 天和3年  | 1683 | 唐子踊?        |       |
| 弘化元年  | 1844 | 唐子踊?        |      | 延宝4年  | 1676 | 唐子踊?        |       |

寛永21年(1645)に東西が別れる以前には「浜町」として出演しているが、その後、延宝4年(1676)までの間には3年おきあるいは6年おきの出演だったようである。長崎文献社2006および田栗1983をもとに作成。

表1 東濱町による長崎くんちへの奉納踊り・演じもの

## 2. 東濱町の奉納踊りと参加者

昭和49年（1974年）以降、現在にまで至る東濱町の奉納踊りは「竜宮船（りゅうぐうせん）」と呼ばれる曳き物である。それ以前には昭和28年（1953年）から3回に渡って「唐様恋錦絵（からもようこいのにしきえ）」と題する舞踊を奉納していた。（表1参照）

江戸期から昭和戦前期にかけては「唐子踊」の名称で呼ばれる、唐風の行列や、「五、六名で踊る本踊「春日竜神」<sup>3</sup>が奉納されていた。崎陽諏訪明神祭祀図（19世紀初頭）には、唐風の衣装に身を包んだ囃子、張りぼての象、竜宮門などの行列が見られる<sup>4</sup>。

戦後の長崎くんちにおける東濱町の奉納踊りに参加した人々については、『長崎浜の町繁盛記』のほか、長崎くんちプログラム（通称：赤本）に掲載されている情報をもとにおおよそその変遷をたどることができる。昭和28年から平成22年までの戦後10回にわたる長崎くんちへの参加で、把握されている総参加者数は369名である（幼年出場者および先曳としての参加を除く）。昭和28年から42年まで演じられた唐様恋錦絵の演者は70人前後で、演目の関係でそのほとんどが女性だった。昭和49年以降の竜宮船は長采1名、添根曳4名、根曳22名の成人男性によって担われ、このほかに学童20名前後が囃子を担当する。

表2に示されているのは平成22年の竜宮船において根曳、添根曳、長采および各種役職者として参加した人物の一覧である。この中でもっとも参加回数が多いのはID7、ID10、ID13の3人である。ID7は昭和42年に唐様恋錦絵において奏楽少年部に参加し（8歳）、10代から20代にかけては参加していないが、30歳のときからは竜宮船に4回連続で参加している。ID10は10歳で竜宮船の囃子を担当したのち、10代のときの不参加期間を経て25歳のときに竜宮船に参加した。以降、46歳で添根曳となるまで4回連続で出場している。ID13は8歳と10歳で竜宮船の囃子を担当したのち、10代から20代にかけての空白期間を経て30歳で根曳となった。この人物は平成22年の根曳衆のなかではただ一人過去2回の根曳経験があり、青年会の会長であったこともあり、根曳衆のリーダー的な存在であった。

その一方で、根曳衆22人中13人は前回（平成15年）には参加しておらず、そのうち9人は囃子として出演した経験もない、全くの初参加であった。このような、囃子を経験せずに根曳としてはじめて竜宮船に触れる参加者はいずれの回でも根曳衆の約半数を占める。平成22年には9人、平成15年には11人、平成8年には7人、平成元年には11人、昭和56年には10人である。

こうした傾向は竜宮船2回目となる昭和51年の場合には大きく異なる。昭和51年の根曳衆のうち全くの初参加は7人しかおらず、根曳として初参加した他の3人は、昭和35年以前に1度は唐様恋錦絵に奏楽として出演している。表1にあるように、昭和51年の長崎くんちへの出演は特別参加であり、その前の出演から2年しか経っていなかった。そのため多くのメンバーが前回から引き続き出演しているし、この年の囃子を担当した子どもは18人中12人が連続して出演していて、全体として前回出演からの継続性が高かったといえる。

| ID | 店<br>(会社) | 年齢<br>(H22年) | 参加回数<br>(~ H22) | 平成22年  | 平成15年 | 平成8年 | 平成元年 | 昭和56年 | 昭和51年 | 昭和49年 | 昭和42年 | 昭和35年 | 昭和28年 |       |
|----|-----------|--------------|-----------------|--------|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|    |           |              |                 | 2010   | 2003  | 1996 | 1989 | 1981  | 1976  | 1974  | 1967  | 1960  | 1953  |       |
|    |           |              |                 | 竜宮船    | 竜宮船   | 竜宮船  | 竜宮船  | 竜宮船   | 竜宮船   | 竜宮船   | 竜宮船   | 唐様恋錦絵 | 唐様恋錦絵 | 唐様恋錦絵 |
| 1  | T 1       |              | 4               | 自治会長   |       |      | 長采   | 根曳    | 根曳    |       |       |       | 奏楽(少) |       |
| 2  | T 2       |              | 6               | 顧問     | 自治会長  | 自治会長 |      |       |       | 添根曳   | 根曳    | 奏楽(青) | 奏楽(青) |       |
| 3  | T 3       |              | 4               | 総務委員長  |       |      | 根曳   | 根曳    | 根曳    |       |       |       | 奏楽(少) |       |
| 4  | M 1       |              | 3               | 傘鉾委員長  |       |      | 根曳   | 根曳    | 根曳    |       |       |       |       |       |
| 5  | M 2       |              | 3               | 竜宮船委員長 | 長采    | 添根曳  |      | 根曳    |       |       |       |       |       |       |
| 6  | B 1       | 57           | 4               | 長采     | 添根曳   | 根曳   | 根曳   |       |       |       |       |       |       |       |
| 7  | M 3       | 51           | 5               | 添根曳    | 根曳    | 根曳   | 根曳   |       |       |       |       | 奏楽(少) |       |       |
| 8  | R 1       | 51           | 1               | 添根曳    |       |      |      |       |       |       |       |       |       |       |
| 9  | M 4       | 48           | 2               | 添根曳    |       | 根曳   |      |       |       |       |       |       |       |       |
| 10 | M 2       | 46           | 5               | 添根曳    | 根曳    | 根曳   | 根曳   |       |       |       | 囃子    |       |       |       |
| 11 | H 1       | 45           | 4               | 根曳     | 根曳    |      |      |       |       | 囃子    | 囃子    |       |       |       |
| 12 | P 1       | 45           | 2               | 根曳     | 根曳    |      |      |       |       |       |       |       |       |       |
| 13 | T 2       | 44           | 5               | 根曳     | 根曳    | 根曳   |      |       |       | 囃子    | 囃子    |       |       |       |
| 14 | A 1       | 43           | 2               | 根曳     | 根曳    |      |      |       |       |       |       |       |       |       |
| 15 | T 4       | 40           | 2               | 根曳     |       |      |      | 囃子    |       |       |       |       |       |       |
| 16 | (電力会社)    | 40           | 1               | 根曳     |       |      |      |       |       |       |       |       |       |       |
| 17 | K 1       | 40           | 1               | 根曳     |       |      |      |       |       |       |       |       |       |       |
| 18 | T 5       | 38           | 3               | 根曳     | 根曳    |      |      | 囃子    |       |       |       |       |       |       |
| 19 | H 2       | 37           | 2               | 根曳     | 根曳    |      |      |       |       |       |       |       |       |       |
| 20 | (百貨店)     | 36           | 1               | 根曳     |       |      |      |       |       |       |       |       |       |       |
| 21 | T 6       | 36           | 1               | 根曳     |       |      |      |       |       |       |       |       |       |       |
| 22 | A 2       | 35           | 2               | 根曳     | 根曳    |      |      |       |       |       |       |       |       |       |
| 23 | M 5       | 35           | 2               | 根曳     | 根曳    |      |      |       |       |       |       |       |       |       |
| 24 | Y 1       | 32           | 1               | 根曳     |       |      |      |       |       |       |       |       |       |       |
| 25 | M 6       | 31           | 1               | 根曳     |       |      |      |       |       |       |       |       |       |       |
| 26 | Y 1       | 31           | 1               | 根曳     |       |      |      |       |       |       |       |       |       |       |
| 27 | T 7       | 30           | 1               | 根曳     |       |      |      |       |       |       |       |       |       |       |
| 28 | M 1       | 28           | 2               | 根曳     |       |      |      | 囃子    |       |       |       |       |       |       |
| 29 | (銀行)      | 26           | 1               | 根曳     |       |      |      |       |       |       |       |       |       |       |
| 30 | H 3       | 25           | 2               | 根曳     |       | 囃子   |      |       |       |       |       |       |       |       |
| 31 | I 1       | 22           | 2               | 根曳     |       | 囃子   |      |       |       |       |       |       |       |       |
| 32 | (大学生)     | 19           | 2               | 根曳     | 囃子    |      |      |       |       |       |       |       |       |       |

表2 平成22年の竜宮船に関与した成人男性32名のくち出演歴(根曳は年齢順に掲載した)

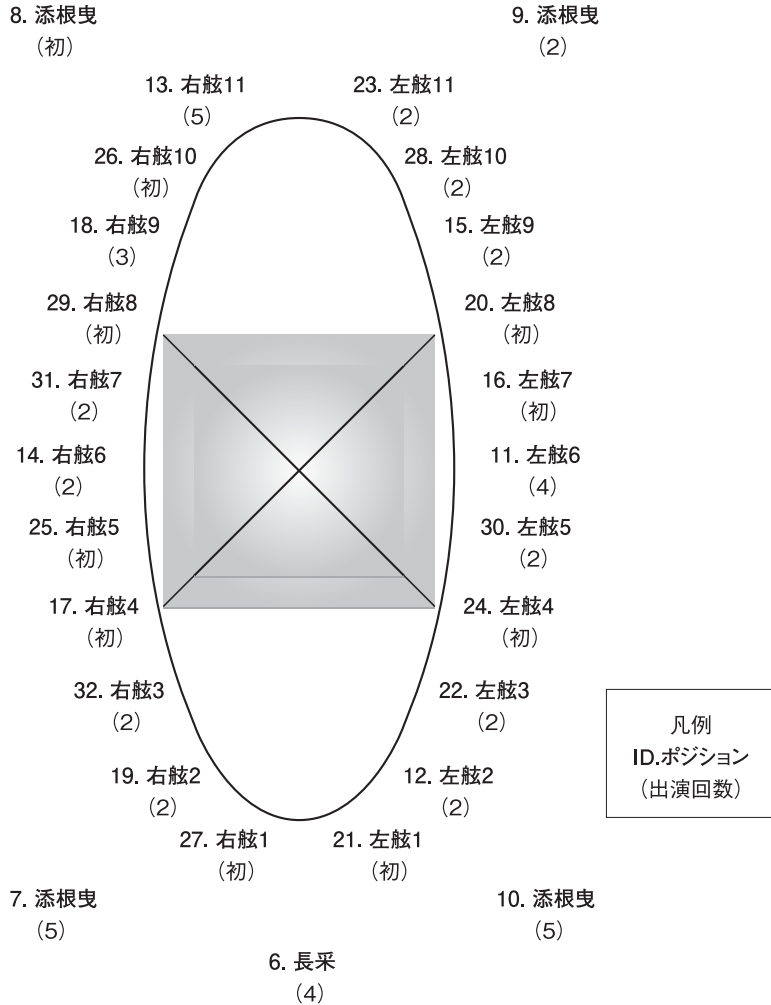


図3 平成22年竜宮船の長采、添根曳、根曳の配置 (IDは表2と対応)

### 3. 担い手の継続性と地域アイデンティティ

担い手の継続性は、くち活動の持続のみならず、東濱町あるいは浜市としての町そのものの持続性と不可分の問題である。森田は、くちが「近隣社会の人間関係の確認のための儀式であり、社会道徳の教育、伝承の意義」を持つとしながらも、調査を行った1970年代後半の時点において「その伝統的近隣社会そのものが崩壊の危機を迎えつつある」と指摘する（森田 1990 : 45）。東濱町に関して言えば、店舗と住居が一体となったかつての形態は見られなくなり、筆者が把握するかぎり多くの参加者が浜町に居住しなくなっている。そもそも東濱町という名称は町堺町名変更によって昭和41年11月に消滅しており、旧東濱町は西濱町や銅座町の一部などとともに新たに「浜町」として再編されている。そうした条件下において東濱町という仮想の共同体を実体あるものとして成立させている仕掛けとして、ここでは2点指摘したい。それは<sup>(1)</sup>くちを通した

ライフコースモデルの提供、<sup>(2)</sup>自治会、青年会、商店連合会などのアソシエーションの重層性である。

竜宮船への関与の仕方は、成長段階ごとに階梯を上げるように設定されている。幼児は親に付き添われて先曳として参加し、その後、小学生の段階で囃子を経験する（生まれ年と7年ごとのローテーションにより囃子としての参加は1回か2回に限られる）。中学、高校、大学と教育課程を上がっている時点で参加するものはあまりいない。表2に見られるように、東濱町では囃子を経験したあと、くunchiを2回から3回に渡ってスキップするものが多い。その多くは、東京をはじめとした他の都市で大学に進学し、その後の就業や結婚などの理由によって長崎を離れている。30代にさしかかる頃に根曳として参加するようになるが、これはひとつにはくunchiに参加することを長崎に戻ってくる（そして家業を継ぐ）きっかけとするからである。根曳として参加できるのは40代半ばくらいまでだと言われる。多くの者はその時点で竜宮船から離れるが、50代に入っても添根曳（毎年4人）や長采として関わり続ける者も必要である。あるいは、裏方として各種委員として竜宮船の運営に携わる人々も多い（くunchiにあたっては総務、傘鉾、竜宮船、シャギリ、先曳など、数多くの担当委員会が設置される）。

ところで、こうした組織上の年齢階梯的な側面が、伝統的なものであるかどうかは、現時点では判断としない。竜宮船は昭和49年に始まった新しい演目であり、それ以前の「唐様恋錦絵」の演者がほとんど女性であったこともあり、歴史的な変化を検討するための材料を欠く。また囃子を経験しないまま根曳になる者も相当数いるため、上記のようなライフコースがひとつのモデルとして機能しているかどうかは、今後の検討課題である。

他方で、商店街としての浜の町の組織化においては、竜宮船への関与、および個々の商店（あるいはそこに属する者）の町そのものへの関与の間につながりが見られる。表4には歴代の長采および添根曳経験者のくunchi参加歴をまとめたが、ここからは根曳としての貢献回数がその後の添根曳および長采への抜擢に少なからず関係していることが読み取れる。またこうした経歴が、くunchiとは別に、地域の商業活動における重要なポジションへと繋がることも示唆される。ID2の人物は添根曳で竜宮船活動を終えてしばらくした後に自治会長に就任し、平成22年のくunchiでは東濱町の「顧問」という肩書きを得ていた。ID1は平成元年に長采を担当し、平成22年には東濱町の自治会長であった。ID66は根曳、添根曳、長采をすべて経験し、その後（表4には現れていないが）自治会長に就任しただけでなく、長崎浜市商店街振興組合の理事長など要職を歴任している（この人物の父親もまた戦後長きにわたって東濱町の自治会長を務めていた）。平成22年に長采を務めたID5は、その後、同振興組合の会長職にある。根曳のリーダー格だったID13（表2）はこのとき青年会の会長であり、また商店街組合連合会においても重要な地位にある。

このように竜宮船に参加することと、浜町の商業活動においてリーダーとして活動することは、多くの面で重なる。ここでは仮想住民アソシエーションとしての東濱町自治会・青年会のほか、上記の振興組合や浜市商店連合会、それに長崎浜んまち商店街振興組合連合会などの、複数の商業アソシエーションが重層的に存在するのだ。

| ID  | 店(会社) | 平成22年<br>2010 | 平成15年<br>2003 | 平成8年<br>1996 | 平成元年<br>1989 | 昭和56年<br>1981 | 昭和51年<br>1976 | 昭和49年<br>1974 | 昭和42年<br>1967 | 昭和35年<br>1960 | 昭和28年<br>1953 |
|-----|-------|---------------|---------------|--------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 6   | B 1   | 長采            | 添根曳           | 根曳           | 根曳           |               |               |               |               |               |               |
| 7   | M 3   | 添根曳           | 根曳            | 根曳           | 根曳           |               |               |               | 奏楽(少)         |               |               |
| 8   | R 1   | 添根曳           |               |              |              |               |               |               |               |               |               |
| 9   | M 4   | 添根曳           |               | 根曳           |              |               |               |               |               |               |               |
| 10  | M 2   | 添根曳           | 根曳            | 根曳           | 根曳           |               |               | 囃子            |               |               |               |
| 5   | M 2   | 竜宮船委員長        | 長采            | 添根曳          |              | 根曳            |               |               |               |               |               |
| 33  | G 1   |               | 添根曳           | 根曳           | 根曳           |               |               |               |               |               |               |
| 34  | S 1   |               | 添根曳           | 根曳           | 根曳           |               |               |               |               |               |               |
| 35  | H 3   |               | 添根曳           | 根曳           | 根曳           | 根曳            |               |               |               |               |               |
| 66  | I 3   |               |               | 長采           | 添根曳          | 根曳            |               |               |               |               |               |
| 67  | K 2   |               |               | 添根曳          | 根曳           | 根曳            | 根曳            | 根曳            |               | 奏楽(少)         |               |
| 68  | H 4   |               |               | 添根曳          | 根曳           |               |               |               |               |               |               |
| 69  |       |               |               | 添根曳          | 根曳           | 根曳            |               |               |               |               |               |
| 1   | T 1   | 自治会長          |               |              | 長采           | 根曳            | 根曳            |               |               |               | 奏楽(少)         |
| 93  | H 4   |               |               |              | 添根曳          | 根曳            | 根曳            | 根曳            |               | 奏楽(青)         |               |
| 94  | B 3   |               |               |              | 添根曳          | 根曳            |               |               |               |               |               |
| 95  |       |               |               |              | 添根曳          | 根曳            | 根曳            |               |               |               |               |
| 119 | L 1   |               |               |              |              | 長采            |               |               |               |               |               |
| 120 | S 3   |               |               |              |              | 添根曳           | 根曳            |               |               |               |               |
| 121 | D 1   |               |               |              |              | 添根曳           | 根曳            | 根曳            |               |               |               |
| 122 | T10   |               |               |              |              | 添根曳           | 根曳            | 根曳            |               |               |               |
| 123 |       |               |               |              |              | 添根曳           |               | 根曳            |               |               |               |
| 154 | K 2   |               |               |              |              |               | 長采            |               | 奏楽(青)         |               | 奏楽(青)         |
| 2   | T 2   | 顧問            | 自治会長          | 自治会長         |              |               | 添根曳           | 根曳            | 奏楽(青)         | 奏楽(青)         |               |
| 155 | F 1   |               |               |              |              |               | 添根曳           |               | 奏楽(青)         |               |               |
| 156 | F 2   |               |               |              |              |               | 添根曳           |               |               |               |               |
| 157 | H 5   |               |               |              |              |               | 添根曳           | 根曳            |               |               |               |
| 151 |       |               |               |              |              |               | 竜宮船委員長        | 長采            |               |               |               |
| 198 | H 1   |               |               |              |              |               |               | 添根曳           |               |               |               |
| 199 | M 2   |               |               |              |              |               |               | 添根曳           |               |               | 奏楽(青)         |
| 200 |       |               |               |              |              |               |               | 添根曳           |               |               |               |
| 201 | S 5   |               |               |              |              |               |               | 添根曳           |               |               |               |

図4 長采および添根曳経験者のくunchi参加(IDは表2と対応)

#### 4. おわりに

本稿では、東濱町の人々の長崎くunchiへの関与のありかたと、各種アソシエーションとの関わりをもとに、絶えず移入と移転が繰り返される商店街における「地元アイデンティティ」を構成する文化的仕掛けを洗い出す作業を行った。人々の地元への愛着は、もちろん、こうした制度的



なものだけではない。筆者は2010年の12月末に、浜町の夜警（火の用心）活動の詰め所に招かれ、そこでくち関係者（主として根曳衆）とともに過ごす機会を得た。そこは年齢による上下の序列が確立された世界であり、森田が指摘するような「近隣社会の人間関係の確認」「社会道德の教育、伝承」といった社会統合の機能を持つ場である。また同時に、詰め所においては竜宮船の映像記録を繰り返し観ながら感想を述べあい、7年後のくちについて意見を交わす場でもあった。本稿執筆時点（2014年）には東濱町は年番町にあっており、このあと平成29年（2017）年のくちに向けて竜宮船の修復などの準備に取りかかるはずである。前回の竜宮船との比較において、その社会のあり方を記述・分析するとともに、本稿で検討した仮説的命題の適用可能性を検討し、そこで得られた視点を広く長崎近代史のなかに位置づけることが今後の課題となるであろう。

## 謝辞

平成22年の調査にあたっては、東濱町の方々に多くのことを教えていただいた。とりわけ自治会長の田中直英氏（タナカヤ）、総務委員長の松田祥吾氏（多津屋）、長采の本田時夫氏（梅月堂）浜市商店連合会の有川政孝氏（有川）、三山格氏（マロニエ）、三田村正昭氏（ミタムラ）また高橋孝次氏（高橋呉服店）をはじめとした同世代の根曳衆には、練習中の撮影や観察をお許しいただいただけでなく、さまざまな集まりへの参加の機会をいただくなど、ひとかたならぬお世話になった。ここに謝して記す。（肩書きはすべて当時のもの）

<sup>1</sup> 筆者は2010年（平成22年）の5月から10月にかけて、竜宮船の準備の現場に数度にわたって足を運び、練習風景の撮影や折に触れてのインフォーマルインタビューを実施した。本稿ではそうした現地調査で得られた資料の一部を用いている。なお、本研究に関しては以下の二回の口頭発表を行っている。「長崎浜町研究事始：地縁共同体としての商店街とその紐帯をめぐる人類学的アプローチ」（長崎大学重点研究課題「持続可能な東アジア交流圏の構想に向けた人文・社会科学のクロスオーバー——「共生」概念の学際的統合にもとづいて」第3回月例セミナー、於：長崎大学、2011年10月15日）、「The Construction of “Native Nagasaki” Mindset: Identifying Local Communities, Practices and Customs」（長崎大学東アジア共生プロジェクト国際シンポジウム「東アジアにおけるヒト・モノ・情報・資本の多元的流通——グローバルな社会・文化動態研究に向けた学際的試み（Interdisciplinary Approaches toward the Study of Socio-Cultural Dynamics in East Asia）」、於：長崎大学文教キャンパス、2013年12月14日）

<sup>2</sup> 一般には「東浜町」の表記が用いられるが、本稿では旧来の表記を尊重し「東濱町」と記載する。本節における東濱町の沿革は田栗（1983）の記述に大きく依存している。

<sup>3</sup> 長崎民友新聞の昭和28年10月3日の記事「おくんち前奏曲」の記事より。なお筆者はこの記事の現物を確認できておらず、ここでは田栗（1983：372）を参照している。

<sup>4</sup> 大阪府立中之島図書館に所蔵されている崎陽諏訪明神祭祀図は長崎文献社より詳細な解説付きで出版されており（長崎文献社2006）、東濱町の行列を目にすることができる。長崎市丸山町の史跡料亭・花月には江戸時代に東濱町のくち奉納踊りで使用された壇尻（内部に囃子方が入って移動する屋台）の現物が展示されているが、同絵巻にはこの壇尻は描かれていない。表1にまとめた資料には「段尻」「曳段尻」の語が見えるが、これが具体的にどのようなものを指すのか、現時点では不明である。

## 参考文献

- 大田由紀 2013 『長崎くち考』長崎文献社  
 田栗奎作 1983 『長崎浜の町繁昌記』長崎・浜市商店連合会  
 長崎文献社 2006 『秘蔵！ 長崎くち絵巻：希望諏訪明神祭祀図』長崎文献社  
 森田三郎 1990 『祭りの文化人類学』世界思想社